2026年
10月の活動報告

Seibo
Feeding the Future

概要

2026年10月は、日々の学校給食と、それを支える日常の取り組みや地域の支援とのつながりに焦点を当てました。ムジンバ（Mzimba）とブランタイヤ（Blantyre）では、せいぼマリアがリクニ・パーラの提供を継続するとともに、教員、ボランティア、給食委員会と協力し、衛生管理、調理、プログラムのモニタリング体制の強化に取り組みました。
日々の給食は、子どもたちの出席や授業への参加、健やかな成長を支えています。また、マラウイ産コーヒーは、日本の支援者と現地の活動をつないでいます。売上は給食支援の継続に役立てられています。



クリバー（Kriver）保育園の子どもが、マラウイ産のコーヒーを持っています。コーヒーの売上は、せいぼマリアの学校給食支援の継続に役立てられています。

10月の概要

- ムジンバ（Mzimba）とブランタイヤ（Blantyre）で合計355,666食を提供
- 21,000人の子供が在籍（男子10,335人、女子10,665人）
- 19,191人の子供が出席（男子9,351人、女子9,840人）
- 報告された数値に基づく出席率：91.4%
- 給食支援を実施している学校でデータ管理の指導や活動状況の確認、衛生面のサポートを実施

プログラム概要

1) 健やかな成長と学びを支える

リクニ・パーラは、子どもたちの健やかな成長や学習意欲を支えるエネルギー、タンパク質、ビタミンを提供しています。
クリバー（Kriver）保育園では、子どもたちが毎日一緒に給食を食べる様子が見られました。また、給食支援を行っている各学校の教員からは、十分な食事をとった子どもたちは、授業や学校活動により積極的に参加するようになるとの声が寄せられています。
継続的な給食の提供は、学校で過ごす時間の空腹を和らげ、子どもたちが授業に集中し、意欲的に学べる環境づくりにもつながっています。



クリバー（Kriver）保育園の子どもたちが、リクニ・パーラを食べながら、
楽しい食事の時間をみんなで過ごしています。



セント・キジト（St. Kizito）小学校の子どもたちは、リクニ・パーラを食べ、
栄養をしっかりと取りながら、学校での一日を元気に過ごしています。

2) 学びの土台を築く

保育園での生活は、子どもたちが自信や社会性、生活習慣を身につけ、その後の学びに備える大切な機会となります。
マクウィカ（ Makwika）保育園では、制服を着用することで、すべての子どもたちが共通の学校の一員であるという意識を持ち、仲間意識や平等性を育んでいます。こうした幼少期の経験は、子どもたちが周囲の人々と円滑に関わり、小学校へ進学した際にも新しい環境に適応しやすくなることにつながります。



マクウィカ（Makwika）保育園の子どもたちが制服を着て並んでいます。
制服を通じて、子どもたちの間に平等意識や仲間意識が育まれ、学校の一員としての意識も高まっています。

3）健康的な生活習慣を身につける

安全で衛生的な給食を提供するためには、衛生管理が欠かせません。マチェレチェタ（Machelecheta）小学校では、リクニ・パーラの提供前に、ボランティアが子どもたちの手洗いを手伝い、清潔なカップを用意しました。

健康的な食事は、清潔な手やカップ、そして日々の丁寧な衛生管理から始まります。

こうした日々の習慣は、感染症の予防につながるだけでなく、子どもたちが自分の健康を大切にする意識を育むことにもつながります。



A community volunteer helps learners wash their hands before mealtime at Machelecheta Primary School.



デイビー（Davy）小学校では、ボランティアが日々の給食の準備を手伝い、地域全体で給食支援を支えていく意識を高めています。

4）地域主体の取り組みを強化する

ボランティアや給食委員会、学校保健・栄養担当の教員は、日々の給食支援を進めるうえで重要な役割を果たしました。給食に必要な物資の受け取りから、調理、配膳までを行い、活動状況の確認や指導の場では、現場で気づいたことや改善点について意見を共有しました。
地域の人々がこうした活動に積極的に関わることで、地域全体で給食支援を支える体制が強化され、各学校が直面する課題にも柔軟に対応しやすくなりました。

「私たちは食事を用意しているだけではありません。子どもたちが学校に通い続け、学びを深められるよう支えているのです。」

― デイビー（Davy）小学校のボランティアより

まとめ

10月の活動を通じて、安定した給食支援を続けるためには、食事の提供だけでなく、さまざまな取り組みが必要であることが改めて確認されました。給食の栄養や衛生面への配慮、幼児期からの生活習慣づくり、活動状況の確認や地域の人々の協力など、さまざまな取り組みが組み合わさることで、子どもたちが安心して過ごし、学べる学校環境を支えています。
ムジンバ（Mzimba）とブランタイヤ（Blantyre）では、せいぼマリアが引き続き給食支援に取り組み、子どもたちが十分な食事をとって登校し、授業に継続して参加しながら、学びを深められるよう支援しました。



カゼンゴ（Kazengo）小学校では、ボランティアが意見や気づいた点を共有し、
給食の提供方法やプログラム全体の改善に役立てています。

給食が、子どもたちの栄養と学びを支え、地域の人々のつながりを育んでいます。